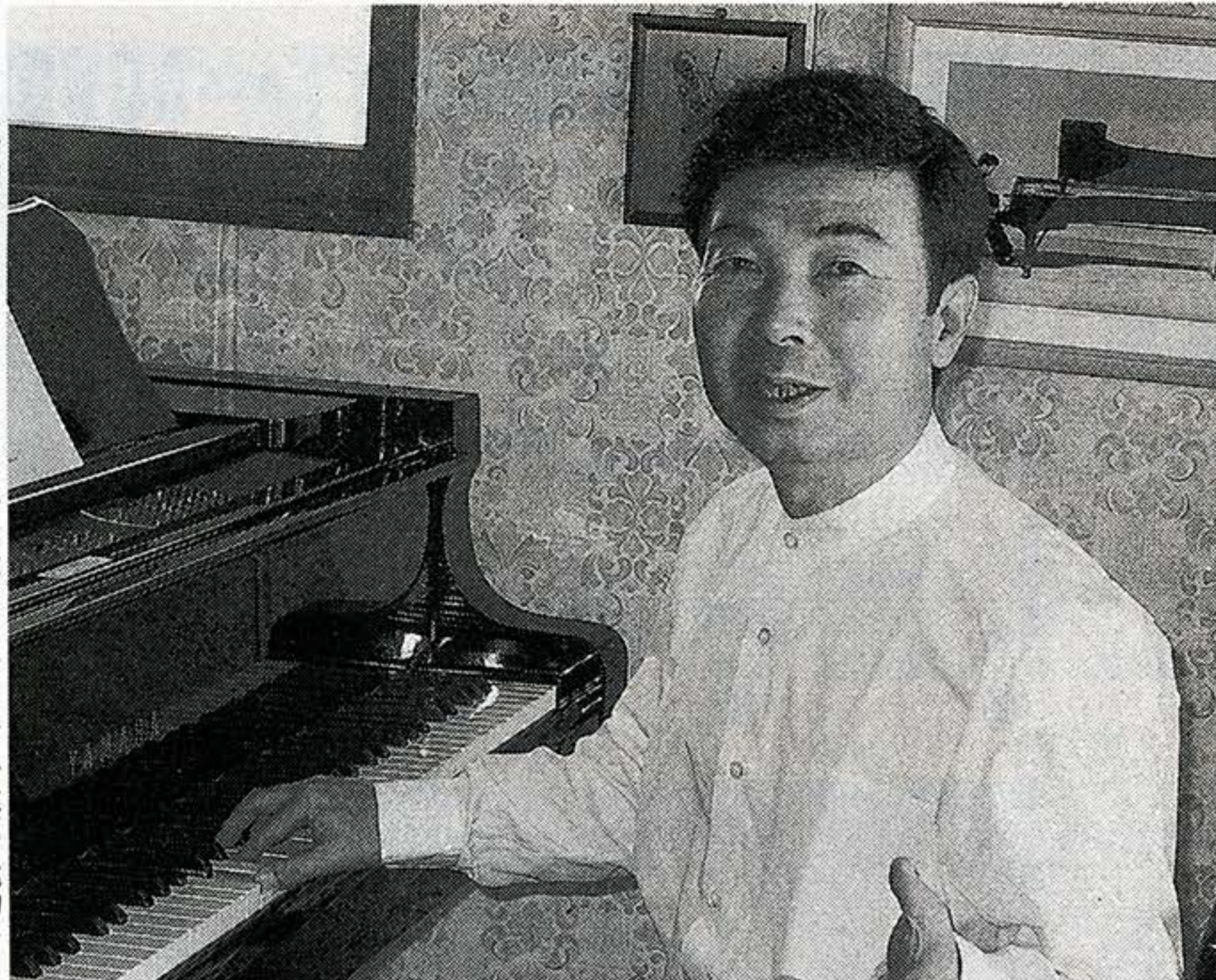


釧新郷土芸術賞に輝く

受賞者
の横顔

□3□



「楽器ひとつでいろいろな音を醸し出すのが音楽の魅力」と小飼久司さん

小飼 久司さん (53)

釧路市美原 3

道釧教大で本格的に音楽を勉強

今日に至る音楽との出会いは清水高校1年生の時。歌いたいとの願望で合唱部に入ったが、部

音楽指揮

員は女子ばかりで指揮を務めることになった。恩師・高橋亮仁さんが指導する町の合唱団に加入し、ピアノの個別指導も受けた。

本格的に音楽を勉強したいと道教大釧路校に進む。卒業後は釧路市立緑陵中を振り出しに、釧路商業高、釧路江南高の音楽教諭となり現在に至

る。1998年から釧路より遅く、とにかく夢中だったと話す。合唱連盟理事長、釧路混だった」と振り返る。

札幌「第九」公演で高評価 「音楽の素晴らしさを広めたい」

新人演奏会に
ピアノで出演

釧路音楽協会の登竜門の第九合唱にかかわり、新人演奏会には第4回演奏会にピアノで出演。かつての新人は今や指導者になった。99年8月の釧路市民文化会館での札幌交響楽団「第九」釧路公演で、合唱指揮を務めた。同公演が評価され、昨年2月には第24回釧路音楽協会高後賞受賞。

2000年にはPMFオーケストラ釧路公演で、ホルスト「組曲惑星」に出演した釧路合唱連盟女声合唱団を指揮した。組曲惑星第7曲・海王星は神秘がテーマ。女声合唱団が舞台裏から発声し神秘性を演出した。黒子に徹した舞台上で「オーケストラの指揮者をモニタ―でチェックした。合唱指揮での遅れは許されな

「好きな音楽を仕事にでき感謝」
昨年は出身地の清水町の第九合唱にかかわり、恩師を手助けするなど故郷で磨き上げた手腕を十二分に発揮した。21世紀幕開けの今年、第30回釧路新郷土芸術賞に輝く。「大好きな音楽を仕事にでき感謝したい。原点に立ち帰り、地域に音楽の素晴らしさを広めたい」と抱負を語る。

アッパし君
木崎征夫

